

## 2024年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(1)

授業科目(担当教員)	講義概要	
日本 理解 専攻	<b>日本語学概論Ⅱ</b> (部田 和美)	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Ⅱでは主に文章や談話に見られる文法や、社会と言語について扱う。
	<b>日本史学概論</b> (梶原 健嗣)	本講義は、日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。
	<b>歴史と現代</b> (梶原 健嗣)	日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。
	<b>現代日本事情Ⅱ</b> (部田 和美)	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。
	<b>日本と西洋文化</b> (栗林 慶)	言語、宗教、政治経済といった様々な事象を地域・環境の側面からとらえることにより、日本や西洋の文化について学ぶ。
	<b>日本と国際社会</b> (梶原 健嗣)	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。
	<b>国際協力学</b> (梶原 健嗣)	戦後の国際関係、国連を中心に学ぶことで、国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて、今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。
	<b>バイリンガル教育論</b> (清水 聖子)	バイリンガル教育とは何か、子どもを中心に言語の発達と年齢の関係、バイリンガル教育の理論と実践を紹介していく。
	<b>地域文化と観光</b> (羽田 利久)	日本各地にある様々な地域文化を元にした観光資源について、映像などを使用しながら理解しやすく説明する。なお、観光資源とは観光の対象となる可能性を持っている素材のことであり、様々なものが対象となる。
	<b>日本研究</b> (栗林 慶)	今日の様々な社会問題へアプローチする土台として、産業活動の側面から日本の地域システムと諸地域の変貌を考える。
心理 専攻 ・ 生活	<b>心理学基礎</b> (原島 雅之)	「心」は自分にとっても身近で明らかかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思える。心理学という学問において、そのような「心」に対してどのようにアプローチを行ってきたのか、様々な分野の代表的な知見を紹介していく。

## 2024年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(2)

授業科目(担当教員)	講義概要	
心理・生活専攻	<b>心理学概論</b> (中村 博子)	心理学の基礎的分野を幅広く講義・演習を通じて学び、様々な角度から心のはたらきについて議論する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。
	<b>社会心理学Ⅱ</b> (原島 雅之)	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。
	<b>発達心理学</b> (中村 博子)	人間の生涯を通じて、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、自分と他者・社会の関係における自己の発達について考える。また、「虐待」「発達障害」等の発達にかかわる社会的課題については、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。
	<b>生活科学概論Ⅱ</b> (市川 遥夏)	衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品の科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。
	<b>食品機能学</b> (市川 遥夏)	食品の一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(生体調節機能)について解説し、特に生体調節機能にかかわる食品、食品成分、その効果およびその作用機序などについて説明する。
	<b>食品衛生学</b> (市川 遥夏)	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。
地域共生専攻	<b>法律学概論</b> (太田和 良幸)	日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、どのように対処したら良いのか具体的事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。
	<b>公共政策学</b> (岡庭 義行)	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。
	<b>環境政策学</b> (岡庭 義行)	環境政策とは、環境問題を解決するための手段(methodology)である。本講は、環境政策の歴史や基礎的概念、理念・目的について学び、特に、国内外における環境問題の事例考察と、その解決のみならず、これから求められる環境政策についても考究することを目的としている。
	<b>まちづくり論</b> (岡庭 義行)	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」とともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。

## 2024年度 後期「科目等履修生」開講科目 講義概要(3)

	授業科目(担当教員)	講義概要
地域 共生 専攻	<b>移民政策論</b> (栗林 慶)	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事例について紹介する。
	<b>社会経済史</b> (中村 塑)	今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの關係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような關係を持ってきたのかについて講義する。
ビ ジ ネ ス 専 攻	<b>情報科学概論</b> (日坂 彰)	情報科学概論は、情報科学の基礎やコンピュータやインターネットの仕組み及び原理を学習する。特に、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて、その詳細を学習する。
	<b>ビジネス情報学</b> (大屋 伸彦)	本講義は変化の激しい情報化社会に対応するために必要な情報リテラシーとデータサイエンスの基礎を身につけることを目的とする。
	<b>プログラミング基礎</b> (日坂 彰)	本講義では普及度や実用性の高いプログラミング言語を用いて、プログラミングの基本的な構文と動作に関する演習を行う。
	<b>セキュリティ概論</b> (日坂 彰)	情報システムやインターネットの利便性が高まる一方で、様々なセキュリティリスクが伴う現実に対し、情報セキュリティの基本的知識と対策の必要性を講ずる。
	<b>基礎統計学</b> (大屋 伸彦)	学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学の重要性が増している。古典的な推測統計学の基礎を学ぶとともに、手法を使えるようにExcelを用いて記述統計学から初歩的な推測統計学を学ぶ。
	<b>会計学概論</b> (呉 鳶)	企業会計は、会社の効率的な運営にとって不可欠な手続きである。実践的な知識として習得するため、本講義では演習問題を数多くこなしていく。
	<b>原価計算論</b> (呉 鳶)	原価計算は、現代の経済社会を適切に運営するために不可欠なシステムである。本講義では、原価計算モデルの基本的特徴、原価計算制度の基本構造等の専門知識と応用力を習得することができる。
	<b>マーケティング論</b> (中野 慶昭)	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶ。